されるがま魔女

さく・が　からし子

ある霧ぶかい　森のおくに、100ねんのあいだ　生きつづける　魔女がすんでいました。

魔女は　おさないころに　不老不死のじゅつをつかい、としをとることも　死ぬことも　なくなりました。

森には　わかい女性を　つれさったり、犯してしまう魔物が　たくさんいます。

魔女も　これまで魔物に　犯されることが　なんどもありました。

しかし、だれかをきづつけることがきらいな　やさしいせいかくの魔女は、「死なないからだだから」と、魔物のきがすむまで　いつもおとなしく　犯されてあげていました。

ある日、魔女がいつものように　森で魔法のざいりょうを　あつめていると、　そこに　ゴブリンが　やってきました。

ゴブリンは　魔女がきていた　ローブを　ぬがし、　魔女の　せなかに　しがみつきました。

「ギヒヒッ、　ヒサシブリノ　ニンゲンノ　メス！　交尾！　交尾スル！」

そう　言いながら、　ゴブリンは　勃起した　ちんぽを　魔女の　まんこに　こすりつけます。

ゴブリンは　魔女のまんこに　ちんぽをいれると、　はげしく　こしを　うごかしはじめました。
とつぜんの　できごとに　おどろきつつも、魔女にとっては　いつもの　ことです。
いつもどおり　まんぞくするまで　からだを　つかわせてあげる　ことにしました。

ゴブリンの　こしのうごきは　いっそう　はげしくなり、
グチョグチョと　音をたてています。
「ウギギッ、モウ　射精ル！　ゼンブ　中ニ出ス」
ゴブリンは　ひくひくと　けいれん　しながら、　魔女
に　おもいきり　精液を　そそぎました。

ゴブリンが　魔女(まじょ)から　ちんぽをひきぬくと、　まんこから　どろどろと、精液(せいえき)が　こぼれだします。

「もう、まんぞく　したのかな？・・・」　そんなことを　おもう　魔女(まじょ)でしたが、　まだ　まんぞくしてない　ゴブリンは、　しがみついたまま　はなれません。

すると　そこにもう１匹　ゴブリンが　あらわれました。

「ギヒッ　オレモ　メスノ穴　ツカウ！　交尾スル！」

そういうと　魔女にしがみつき、　まんこに　勃起した

ちんぽを　さしこみました。

「ギヒッ　オレ、　尻ノ穴　ツカウ！」　背中に　しがみついたままの　ゴブリンは　言いました。

魔女の　ことなんて　おかまいなしに、　２匹は　はげしく　こしを　うごかしつづけます。

そして、　どくどくと　きもちよさそうに、　のこさず精液を　そそぎこみました。

精液を　出しきり　2匹は　まんぞくした　ようすで、

どこかへ　さっていきました。

魔女の　あなるや　まんこからは、　精液が　ポトポト

と　たれています。

「んっ・・・たくさん　だされちゃった・・・」

魔女は　すこし　つかれた　ようすです。

ゴブリンたちが　いなくなると、こんどは　大きな　2匹の　ホブゴブリンが、魔女のにおいを　かぎつけて　やってきました。

2匹は　魔女を　見つけると、らんぼうに　だきあげ　ちんぽを　つきたてました。

おとなしく　たえる　魔女ですが、　のどの　おくまで
ちんぽを　入れられて、　とてもくるしそうです。
そんなことなど　おかまいなしに、、ホブゴブリンたちは
ようしゃなく　腰を　うちつけます。
やがて　ホブゴブリンたちは　ぴくぴくと　けいれんし、
ドロドロの　精液を　魔女に　そそぎこみました。

のこさず　射精(しゃせい)された　魔女(まじょ)の　口(くち)と　まんこからは、
ボトボトと　精液(せいえき)が　たれています。
「ギヒ...オマエノ　ニオイ　覚(おぼ)エタゾ・・・　マタ見(み)カ
ケタラ　犯(おか)シテ　ヤルカラナ」
そう言(い)うと、ホブゴブリンたちは　満足(まんぞく)そうに　どこか
へ　さって　いきました。

よごれた　からだを　洗うため、　魔女は　みずべに
やってきました。
すると　とつぜん、　みずの　なかから　たくさんの　触
手を　もった　魔物が　あらわれました。
魔物は　魔女の　からだに　からみつき、　生殖器のよう
な　触手を　くねくねと　うごかしています。
魔女は　これから　じぶんが　なにをされるのか、　よう
いに　そうぞう　できました。

魔女の　膣や　アナルに、　無理やり　生殖器が　ねじこまれました。

おなかの中では　魔物の　触手が　はげしく　うごきまわります。

触手の　うごきが　さらに　はげしくなり、魔女の　からだに　大量の　精液が　そそぎこまれました。
射精しながらも　触手の　うごきは　はげしく　うねりつづけます。

このあと　2時間　ほど　犯されて、ようやく　触手から　解放されました。
たてつづけに　犯され　ている　魔女は、さすがに　つかれきった　ようすです。

しばらく魔女(まじょ)が　やすんで　いると、　そこに　おおきな
からだをした、　トロールが　やってきました。
トロールは　らんぼうに、　魔女(まじょ)を　りょうてで　もちあ
げます。
「グフ・・・メスノニオイ・・・コノ魔女(まじょ)、カワイイ顔(ひあ)・・・
オマエ、オレノ　オナホニ　スル・・・」
トロールは　とても　こうふんした　ようすです。

トロールは　おおきな　舌を　魔女のまんこに　ねじこみました。
魔女のおなかが　ぽっこりと　ふくれあがるほど、トロールの　舌は　おおきく、膣内を　おくまで　攻めたてます。

「あんっ！　そんなとこ　舐めたら　きたないよっ」

そんな　魔女の声も　とどかないほど、トロールは　夢中で　まんこを　なめつづけます。

トロールの　はげしい攻めに　がまんできず、とうとう魔女は　絶頂して　しまいました。

魔女が絶頂したと　みるやいなや、トロールは　まんこに　すいつきました。
「ゲフゥ・・・魔女の膣・・・ウマイ・・・ゼンブ吸イダス・・・」そう　言いながら、夢中で愛液を　のみこんでいます。

しつこく　舌で　かきまわされた　魔女の　まんこは、
ぱっくりと　ひらいて　とじません。
「ダイブ　マンコホグレタ・・・チンポイレル・・・オナホニスル・・・！」
トロールの　こうふんは、もう　おさまりそうに　ありません。

トロールは　魔女の手足を　がっしりと　つかんで、ちんぽを　まんこに　おしつけます。

「こんなに　太いの　入れられたら、　おなか　こわれちゃいそう･･･」

魔女はちょっぴり　ふあんそうです。

トロールは　魔女のちいさな　からだに、　無理やり　ちんぽを　ねじこみます。

「グフゥ・・・！マンコノ中、アッタカイ！・・・オナホ・・・キモチイイ！」

もはや魔女は　トロールにとって、　かんぜんに　オナホール　あつかいです。

トロールは　がっしりと　つかんだ　魔女を　オナホールのように　上下に　うごかし、ちんぽを　しごきつづけます。

「ウグゥゥ！魔女ノマンコ・・・キモチイイ！・・・モウ射精ル！」

トロールが　そう叫ぶと、魔女の　おなかに　たいりょうの　精液が　そそぎこまれました。

トロールは、ちんぽを魔女のおなかの中でビクビクと脈打ち、精液をさいごの一滴まで出し切りました。

魔女のまんこからは、ドロドロとした精液がたれながれています。

じゅぽん！と　音をたてて、魔女の　まんこから　ちんぽが　ひきぬかれました。

まんこ　からは、大量の精液が　たれています。

「グフゥー・・・キモチヨカッタ・・・コノオナホ、巣ニモッテカエル・・・」

魔女は　そのまま、トロールの巣穴に　つれさられてしまいました。

トロールは　魔女(まじょ)を　巣穴(すあな)に　つれこむと、　手足(てあし)を　鎖(くさり)で　つなぎ、　みうごきを　とれないように　しました。

トロールは　その　巨大な　ちんぽを　魔女のまんこに
おしつけながら　言いました。
「グフ・・・サッキノ　ツヅキ　スルゾ・・・」
まだまだ　トロールの　性欲は　おさまって　いなかっ
た　ようです。

何度(なんど)も　ちんぽを　出(だ)し入(い)れ　されて、　ひろがってしまった　魔女(まじょ)のまんこに、　ふたたび　チンポが　入れられました。

「グフゥ･･･ヤッパリ　コノ　オナホ、　キモチイイ･･･！」

トロールは、　みうごきの　とれない　まじょに、　ようしゃなく　ちんぽを　つきたてます。

トロールの　攻めは　どんどん　はげしさを　します。

「あっあんっ・・・　おなか　くるしいっ・・・！」

あまりの　はげしさに、魔女は　くるしそうに　たえています。

「グフ・・・中ニ出スゾ・・・！」

トロールは、そう言うと　大量の精液を、魔女のまんこに　ながしこみました。

トロールの　ちんぽは、魔女の　おなかの　中で　ビクビクと　脈打ちながら、精液を　出しつづけます。
精液を　出しきるまで、トロールは　魔女の　まんこから、ちんぽを　ひきぬこうとは　しませんでした。

ようやく　精液を　出しきった　トロールは、　ゆっくり

と　ちんぽを　ひきぬきました。

魔女の　まんこ　からは、　大量の　精液が　ながれだ

し、　滝のように　こぼれおちます。

休むまもなく　こんどは　3体の　トロールが、巣穴の
おくから　のそのそと　やってきました。
「オマエダケ　ズルイ！　オレタチモ　魔女ノ　マンコ
ツカウ！」
トロールたちは、すでに　勃起している　ちんぽを、
魔女にむけながら　言いました。

トロールたちは　ようしゃなく、魔女に　ちんぽを　つきたてます。

「うう・・・トロールの　ちんぽ、とても　くさい・・・！
それに　3人も　いちどに　なんて、ほんとに　からだこわれちゃうかも・・・」

たびかさなる　レイプに、魔女の体力は　もう　げんかい　でした。

魔女の　ちいさく　幼い　からだで、トロールたちは
ようしゃなく、ちんぽを　しごきつづけます。
そして　いっせいに、魔女に　むけて　大量の　射精を
しました。
「すごい量・・・！　精液で　おぼれちゃいそう・・・！」
魔女は　くるしそうに、トロールの　射精に　耐えてい
ます。

トロールたちの　大量の　射精に　耐えた　魔女は、いまにも　きぜつ　しそうなほど、つかれきっていました。

「グフゥ・・・魔女ノ　マンコ、キモチヨカッタ・・・！デモ、マダ　射精シタリナイ・・・モット　犯ス・・・！」

まだまだ　トロールたちの　陵辱は、おわりそうに　ありません。

3週間もの　あいだ、魔女は　トロールたちの　肉便器
として　つかわれ　つづけ　ました。
そして　とうとう　ちからつきて、森に　すてられて
しまいました。

すると　そこに、以前　魔女を　犯した　ゴブリンが
やってきました。
ゴブリンは　魔女が　生きているか　どうかなど　かく
にん　すること　なく、性欲の　おもむくまま　犯し
はじめました。

しばらく　すると、もう1匹の　ゴブリンも　やってきて、こんどは　魔女の　口を　犯します。
2匹は　気持ち　よさそうに、腰を　へこへこと　うごかし　つづけ、そのいきおいは　だんだんと　はげしさを　ます。

やがて　ゴブリンたちは　絶頂し、　ながい陵辱で　よごれきった　魔女の　からだを、　さらに　黄ばんだ　精液で　よごしました。
ぴくりとも　うごかない　魔女に、　そのあとも　２匹は　何度も　射精し、　性欲が　つきるまで　犯し　つづけます。

ふっかつして、家に　かえるまでの　あいだにも、何度も　魔物に　犯されて　魔女の　からだは　ぼろぼろです。

１ヶ月ぶりに　家に　たどりつき、魔女は　安心したように　ふかい　眠りに　つきました。

さすがの　魔女も、１ヶ月　色々な　魔物に　犯されつづけたのは　はじめてで、こりたようすです。

「魔物に　犯されるのは　嫌いじゃないけど、しばらくは　外にでるのは　ひかえよう。」

そう思う　魔女でした。

おしまい。

されるがま魔女
絵本風CG集